

# 狭間っ子 学校便り

令和8年1月号 三田市立狭間小学校



校長 村岡 智行

明けましておめでとうございます。  
本年もよろしくお願い申し上げます。



保護者の皆様、地域の皆様、あけましておめでとうございます。旧年中は本校の教育活動に対し、ご理解・協力をいただきありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

今年の干支は「午（うま）」です。うまは、「幸運を運ぶ」「努力が実る」「成功・繁栄」などの意味を持っているとのこと。馬が前に向かって力強く進む姿は、物事が調子よく進み、目標達成や成功につながるかとされます。そんなことから、今年は新しいことに挑戦（チャレンジ）するのによい年とすることができるでしょう。

新しい年を迎え、次なる目標を定め1日1日の積み上げを大切に、目標に向かっていってほしいと思います。どうか、この1年が、子どもたち、保護者の皆様、地域の皆様にとって、幸せで実りある1年となることをお祈り申し上げます。

さて、今日から3学期が始まりました。今年度も残すところ、後3ヶ月足らずとなりました。限られた期間の中で、オープンスクール（狭間フェスティバル）、授業参観と学級懇談会、6年生を送る会、卒業式と多くの行事を進めていきます。また地域行事として10日（土）に、狭間が丘地域ではとんど焼きも開催されます。

3学期は子どもたちにとっては次の学年につなぐ大切な時期です。子どもたちとともに、充実した3学期を送れるよう、全職員、全力で取り組んでいきます。

## 阪神淡路大震災から31年、東日本大震災から15年、能登半島地震から2年をむかえて

31年前の1月17日、午前5時46分、阪神淡路大震災が起きました。突然の地震で多くの命が失われ、また、多くの方が長きに渡って避難生活を余儀なくされました。また、2011年3月11日には東日本大震災があり、建物の倒壊、津波で多くの命が失われ、また、原子力発電所からの放射能漏れで、故郷を追われた方もたくさんありました。そして、一昨年（2022年）の1月1日に起こった能登半島地震でも被害にあわれた方の中には元の家に戻っていない方も多くいらっしゃいます。新年を迎えるとき、私た

ちはその年がよい年になるよう願います。しかし、これまで経験した震災のことを忘れず、生活の中で災害に備える心構えを持つこと、身の回りの環境を整えておくことも日々心掛けておかなければなりません。学校でも1月16日には避難訓練を行い震災について学ぶ日とし、防災教育を進める予定です。ご家庭でも、非常時の持ち物の確認など、いざという時の備えについて話し合ってみてください。

狭間が丘地域では連合自治会が中心となって、昨年11月29日（土）に狭間中学校で、地域防災訓練が実施され、その際「災害ボランティアの役割と地域の共助について」と題して、三田市福祉協議会の曾谷浩基さんにご講演をいただきました。いざ災害が起きた時、被災者となることもあります。被災された方に私たちができることもあるのではという視点でお話しいただきました。地域防災の在り方について考える貴重な機会となりました。



## 子どもたちの主体的な学びを「狭間フェスティバル」

1月24日（土）のオープンスクールでは狭間フェスティバルを開催します。出し物は、各学年がそれぞれの教室を使って、学習してきたことと関連づけながら工夫をこらした発表をします。学んだことを生かして、学習を主体的に進めていくことを大切にしています。自分たちの学びを、来ていただいた人に分かりやすく伝えることで、より学習内容が深く確かなものになると考えています。どんな発表になるのか、楽しみにしておいてください。当日はオープンスクールになっています。各学年の出し物の時間は、9:30～11:10です。ご来校のうえ是非ともご覧ください。



## インフルエンザ・風邪等にご注意を！

昨年は11月頃より全国的にインフルエンザが流行し、本校でも3学年で学年閉鎖を行いました。日頃から予防を心がけていても、いざ、学級の中で流行りだすと短期間で多くの子が感染しました。しかしながら、日々の予防対策は欠かせません。手洗いうがい、体調をみてのマスクの着用など自分でできる予防を進めるとともに、バランスの良い食事、十分な睡眠をとることも心がけ、元気な体作りにも励んでほしいと思います。

なお、お子さんが病院でインフルエンザ等の診断を受けた場合は、速やかに学校へご連絡をお願いします。

マラソン記録会(中学年)



## ＝ 1 月行事予定 ＝

1	木	元旦	17	土	
2	金		18	日	
3	土		19	月	トークの日 委員会活動
4	日		20	火	一斉下校(14時20分頃)
5	月		21	水	児童朝会(はさまフェスティバル宣伝)
6	火		22	木	
7	水		23	金	
8	木	始業式 集団下校	24	土	はさまフェスティバル
9	金	PTA運営委員会	25	日	
10	土	とんど	26	月	振替休業日
11	日		27	火	居住地交流(1年) はさまこ読書の日 読書週間
12	月		28	水	児童朝会(集会委員会) クラブ活動(3年見学)
13	火	給食開始 あいさつ運動～19日	29	木	
14	水		30	金	6年校外学習(京都) 居住地交流(5年)
15	木	やさしさ発見の日 安全点検の日 SC	31	土	
16	金	避難訓練			

### 2月の主な予定

- |   |  |
|---|--|
| <p>4日(水) 全校朝会 なかよし遊び<br/>情報モラル講演会(3～6年)</p> <p>5日(木) がんばりタイム3年</p> <p>6日(金) 入学説明会</p> <p>9日(月) 代表委員会</p> <p>10日(火) 5年校外学習(大阪)</p> | <p>12日(木) がんばりタイム2年</p> <p>13日(金) やさしさ発見の日</p> <p>18日(金) やさしさ発見朝会(1, 4年)</p> <p>19日(火) 授業参観 学級懇談会</p> <p>25日(水) 児童朝会(英語:低学年)<br/>クラブ(最終)</p> |
|---|--|

### 「令和7年度全国学力・学習状況調査」について

昨年4月17日に実施された全国学力・学習状況調査の本校に結果について分析し改善策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。家庭での学習などで参考にいただければと思います。また、三田市の結果等につきましても、市のHPに掲載されていますので、併せてご覧ください。

#### 【国語】

＜特に成果の見られた領域や設問＞

○「読むこと」において、今年度は全国平均を上回っている。特に、指定された資料の文章と設問内の発言を結び付けることはよくできている。

＜成果の要因＞

○継続的に自主学習ノートに取り組んでいることで、調べたことをまとめる力がついてきている。短い内容であれば、読み、まとめる力がついてきていることがうかがえる。

＜特に課題の見られた領域や設問＞

◆「情報の扱い方に関する事項」、「書くこと」において、全国平均を下回っている。

＜課題に対する取組の具体＞

◆条件を満たしながら書く課題においては、すべての条件を満たすことができていない児童が多い。全校的な自学的取り組みによって、まとめて書く力は高まっているので、今後、条件を設定して書く課題を授業内で取り組んでいく。

#### 【算数】

＜特に成果の見られた領域や設問＞

○「変化と関係」の領域では、全国平均を上回っていて、二つの数量関係について考える力がついている。「思考・判断・表現」の観点でも全国平均を上回っている。思考力・判断力が身につけているといえる。「記述式」の形式の問題でも全国平均を上回っている。考えを書く力が身につけている。

＜成果の要因＞

○「思考・判断・表現」と「記述式」で全国平均を上回った要因として、本校の研究で「活用」をテーマに掲げ、授業の中で思考場面を大切に取る取組を行ってきたことが、成果として現れたと考えられる。また、全校で基本的なノートの書き方を共有し、「算数ノートコンクール」を行って分かりやすく書いているノートを掲示し、全校生の参考になるような取組も続けてきたことも結果に結びついていると考えられる。

＜特に課題の見られた領域や設問＞

◆「知識・技能」の観点は、全国平均を下回った。基本的な知識の習得に不十分なところがある。特に、「次の数直線のア、イの目もりが表す数を分数で書きましょう」という設問では、全国平均を大きく下回り、分数でなく小数で解答しているものもあった。

＜課題に対する取組の具体＞

◆基本的な内容を身につけるために、朝学習の時間や宿題でドリル学習を行っていくようにする。また、iPad等のICTも積極的に活用していく。指導補助員とも連携し、理解が不十分な子には個別での指導を充実させていく。また、「がんばり学びタイム」も活用し、基礎学力の定着を図っていく。

#### 【理科】

＜特に成果の見られた『学習指導要領の領域』や『評価の観点』、『問題形式』とその特徴等＞

○『「生命」を柱とする領域』は、全国平均を上回っていた。特に顕微鏡の操作に関する設問は全国平均を大きく上回っていた。

＜成果につながった今までの取組み＞

○植物や生物に関する分野では、実際に観察することを大切に授業を行っている。体験することが、深い理解につながっているといえる。

＜特に課題の見られた『学習指導要領の領域』や『評価の観点』、『問題形式』とその特徴等＞

◆『「地球」を柱とする領域』は、全国平均を下回っており課題が見られた。特に水の状態変化に関する説明で、知識定着に課題が見られた。

＜課題に対する今後の取組み＞

◆学んだことをしっかり身につけるためには、実体験、つまり実験や観察が非常に重要であると考え。深く理解するだけでなく、子どもたちの記憶にしっかりと残るようにするために、五感を通した体験的な学びを大切に授業をしていく。

#### 【質問調査】

○自己肯定感を高めるための取組として、「やさしさ発見朝会」や毎月の「やさしさ発見の日」や「トークの日」など、言葉で互いの良いところを伝え合う活動に継続的に取り組んだ結果、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」や「学校に行くのは楽しいと思いますか」などの質問で、全国平均を上回る結果に結びついた。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」や「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」などの質問では、肯定的な評価が多く、全校朝会で「いじめ」について伝えてきたことや、児童に寄り添った対応に組織的に取り組み成果につながっていると考えられる。

◆ICTについて、調べ学習については、肯定的な回答が多くみられる一方で、ICTを活用した情報の整理やプレゼンテーション作りについては、課題が見られた。また、「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」や国語の「文章と図表などを結び付ける」などにも課題が見られた。これらについては、職員研修を通して調べ学習以外のICT活用の推進を図るとともに、タブレットをつかった自宅学習にもこれまで以上に取り組み、児童の情報活用能力の伸長を図っていきたい。